trans-Decalin を含む溶液の混合熱測定*

藤 原 一 朗¹⁾・小 林 正 光²⁾ Ichiro FUJIHARA Masamitus KOBAYASHI 村 上 幸 夫³⁾ Sachio MURAKAMI

Abstract

Excess enthalpies of trans-decalin+benzene,+toluene,+iso-cotane and+heptane were measured at 298.15K, with a flow microcalorimeter having newly constructed piston displacement pumps. The $H^{\rm E}$ values for the aromatic hydrocarbon systems were large and positive. While, for the saturated hydrocarbon systems, they were small and the sign of $H^{\rm E}$ for the heptane system was found to be negative.

緒 言

先に村上ら¹⁾は、298.15Kにおける、trans-decalin、及び、cis-decalin+cyclohexane系の混合熱測 定を行い、それらの系が無極性溶媒同士から成る溶液であるにもかかわらず、モル余剰エンタルピー、 H^{α} 、がS字状の濃度依存性を示す事を報告した。この事は、これらの系では、分子間相互作用の他に も分子の大きさや形状が溶液の熱力学的性質を決める上で大きな役割をする事を示唆している。 そこ で今回は、片方の溶媒として、trans-decalinを選び、もう一方の溶媒に、benzene、toluene、iso-octane 及び、heptaneを用いて、これらの系の混合熱測定を行ったので報告する。

試料:

実 験

trans-decalin (和光特級試薬) は、特に不純物として含まれる cis-decalin 等を取り除くため、減 圧蒸留を2回行った。benzene, iso-octane (同仁化学 Primasol 試薬), heptane(同仁化学 Luminasol 試薬) は、そのまま用いた。toluene (和光特級試薬) は、常法により精製した。²⁾ これらの試料液体 の純度は、島津分析用ガスクロマトグラフ (Model GC-3BT) を用いて調べた。 その結果, transdecalin の純度は、99.8%以上であった。他の試料, benzene, toluene, iso-octane 及び, hepatane については、99.9%以上であった。

これらの試料の密度は、振動型密度計 (Model 01D, Sodev Inc., Canada) で測った。結果は、文 献値²⁾ と共に Table 1 に示す。

^{*}昭和57年5月21日原稿受理1)2)大阪産業大学教養部

³⁾ 大阪市立大学理学部

component	$\frac{\rho(\text{obs})}{\text{gcm}^{-3}}$	$\frac{\rho(\text{lit})^{b}}{\text{gcm}^{-3}}$			
trans-decalin	0.86591	0.86592			
benzene	0.87364	0.87370			
toluene	0.86222	0.86231			
iso-octane	0.68773	0.68781			
heptane	0.67951	0.67951			
for the standard systems					
benzene	0.87366	0.87370			
cyclohexane	0.77384	0.77389			
tetrachloromethane	1.58423	1.58439			
toluene	0.86224	0.86231			
chlorobenzene	1.10107	1.1009			
(interpolation)					

table 1.	Densities of the component
	liquids at 298.15K

^b from reference 2).

熱量計:

モル余剰エンタルピー, H^{a} ,は,LKB社製のフ ロー型微小熱量計(LKB 10700-1)を用いて測定し た。熱量計の測定部は,大きな金属ブロックででき たヒートシンク,混合セル,サーモパイル,及び, キャリブレーションヒーター等から構成されてい る。この測定部は,もともとは,空気恒温槽中に置 かれていたが,今回の測定では,ヒートシンクの温 度のゆらぎを小さくするため,水恒温槽中に置いた。 この水恒温槽は,温度のゆらぎが±3mkに制御さ れている。測定部,特にヒートシンクの温度の安定 性を試験するため,混合セルに一定流量(0.009cm³ sec⁻¹)で水を通しながら,サーモパイルからの電 E信号を調べた。数週間にわたって信号を記録した が,0.25 μ v以下で一定値を示し,ヒートシンクの 温度のゆらぎは,非常に小さい事が判った。このタ

(2)

イプの LKB の熱量計には、もともとシリコンゴム製のチューブをローラーでしごいて液体を送り出す ペリスタティックポンプが装備されていたが、 今回の実験では、 ピストンで試料を送り出すポンプを 用いた。これは、田中ら³⁾が用いたものと似た構造をしている。異なる点は、我々のポンプでは、ス テッピングモーターを用いている点である。 ポンプの流量は、 容積既知のピペットに試料液体を満た す時に要する時間を測って求めた。 その結果、 ステッピングモーターを制御するパルス発振器の最も 多く用いる使用範囲(30Hz~300Hz)では、流量の再現性は、±0.15%以内であった。

田中ら³⁾は、熱補正定数 ε についても検討を加えている。我々も同一の液体を一定流量で混合セルに 送り込みながら、キャリブレーションヒーターの電流を5mAから25mAまで変化させても、 ε は0.1%以内で定数である事を確認した。又、異なる液体を一定流量で流しながら求めた ε は、0.1%の実験 誤差内で、試料液体の定容比熱に対して直線的に変化する事を確認した。従って、混合液体の ε は、 田中ら³⁾が用いた近似式でもって、成分液体の純粋な状態での ε から計算した。

H^Eの実験値に含まれる誤差の主な原因として次の3つが考えられる。(1)ポンプの流量に含まれる誤 差 (2)熱補正定数 *E* に含まれる誤差 (3)サーモパイルからの 電圧信号の読み取り誤差。 これら3つの 原因以外の誤差を含めても, H^E の最大の誤差は, ±0.3%以下である。

次に、この熱量計の信頼性を確めるため、298.15Kで {xbenzene+(1-x)cyclohexane}, {xtransdecalin+(1-x) tetrachloromethane} 及び {xchlorobenzene+(1-x)toluene} の混合のモル余剰エン タルピー, H^{E} ,を測定した。最初の2つの系は、標準吸熱系として、しばしば測定されている系であ る。又、最後の系は、田中ら⁴⁾によって標準発熱系として推奨されている。標準系の測定に用いた成 分液体の密度を文献値²⁾ と共に Tabl 1 に示した。 これらの系の H^{E} 測定の結果を Table 2 及び Fig.1 に示す。得られた結果は、次に示す式に合うよう最小自乗法で処理をした。

$$H^{E} \operatorname{calc}/J \cdot \operatorname{mol}^{-1} = x(1-x) \sum_{a_{i}=1}^{k} a_{i}(1-2x)^{i-1}$$
(1)

各系に対する係数, ai を, 標準偏差, sr, と共に Table 3 に示す。ここで, sr は次式で求められる。

$$s_{\rm f} = [\sum (H_{\rm obs}^{\rm E} - H_{\rm calc}^{\rm E})/(n-k)]^{1/2}$$





fig. 1 Molar excess enthalpies of the standard systems at 298.15 K. Each curve is multiplied by the factor f.

 $\bigcirc : \{x \text{ benzene} + (1-x) \text{ cyclohexane}\}, f=1, \\ \bigcirc : \{x \text{ benzene} + (1-x) \text{ tetrachloromethane}\}, f=5, \\ \bigcirc : \{x \text{ chlorobenzene} + (1-x) \text{ toluene}\}, f=5, \\ \hline\end{aligned}$

table 3. The coefficients and standard deviations of the standard systems for equation(1).

system	a_1	a_2	a ₃	a4 -	sf J mol ⁻¹
$\{x \text{ benzene} + (1-x) \text{ cyclohexane}\}$	3201.45	-158.76	122.20	-62.09	0.63
$\{x \text{ benzene} + (1 - x) \text{ tetrachloromethane}\}$	464.95	-15.38	32.23		0.11
{ x chlorobenzene + $(1-x)$ toluene}	-475.72	-32.90	6.88		0.18

n及びkは,各々,実験点数,用いた係数の数を表わす。Fig.1 中の実線は,Table 3 に示した係数 を用いて式(1)から計算した値を示している。更に、測定値、 H_{obs}^{E} ,と式(1)を用いて得られる計算値、 H_{cale}^{E} ,の差, $d(=H_{obs}^{E}-H_{cale}^{E})$ を Fig.2 から Fig.4 に示す。実線は、他の研究者が得た値と、今 回の測定から得た値の差を示している。これらの図から判るように、今回の測定におけるバラツキは 0.5%以内であり、田中ら^{3,4)}の結果とよく一致している。



fig. 2 Difference plot for excess enthalpies of $\{x \text{ benzene} + (1-x) \text{ cyclohexane}\}$ at 298.15 K. O: Experimental results,

- 1. Tanaka et al. ³⁾, 2. Stokes et al. ⁵⁾,
- 3. Murakami et al. ⁶⁾, 4. Murray et al. ⁷⁾, Dashed curves represent $\pm 0.5\%$ deviation.



fig. 4 Difference plot for excess enthalpies of $\{x \text{ chlorobenzene} + (1-x) \text{ toluene} \}$ at 298.15 K.

O: Experimental results,
1. Tanaka et al. ⁴⁾,

Dashed curves represent $\pm 0.5\%$ deviation.



fig. 3 Difference plot for excess enthalpies of $\{x \text{ benzene} + (1-x) \text{ tetrachloromethane}\}\$ at 298.15 K.

O: Experimental results,

- 1. Tanaka et al. $^{3)}$, 2. Stokes et al. $^{5)}$,
- 3. Murakami et al. ⁶⁾, 4. Murray et al. ⁷⁾, Dashed curves represent $\pm 0.5\%$ deviation.

結果と考察

298.15Kにおける trans-decalin 系の実験結果 を Table 4 及び, Fig.5.6 に示す。各系の結果 は,式(1)に示す多項式に合うように,最小自乗法 で処理をした。係数, a₁,標準偏差, s_r,及び, 最大偏差, dmax, を Table 5 に示す。Fig.5 及 び Fig.6 の実線は, Table 5 に示した係数の値 を用いて式(1)から求めた計算値を示している。こ れらの計算値からの実測値のずれは,全て 0.5% 以内であった。

Fig.5 から判るように、 trans-decalin と芳香 族炭化水素から成る系では、 H^{E} は、正の大きな 値をとる。最大値は、benzene 系で約770 J mol⁻¹ (x = 0.45) toluene 系で約490 J mol⁻¹(x = 0.50) である。 trans-decalin は、二環の飽和炭化水素

である。Fig.1 に示した{x benzene+(1-x)cyclohexane} の H^{E} は, Fig.5 に示す{x trans-decalin +(1-x)cyclohexane}の H^{E} の挙動とよく似ている。この事は, trans-decalin 分子の benzene 溶液中 での挙動が cyclohexane 分子の benzene 溶液中での挙動とよく似ている事を示唆している。一般に, 芳香族炭化水素系では, その分子間相互作用は,分散力以外にも静電的なものからの寄与を含むと考えられる。更には,このような相互作用の結果,純粋な状態では, benzene は, stacking structure と呼ばれる安定な構造を作っていると思われている。溶液に trans-decalin や cyclohexane 分子が加えられると,このような安定な構造が壊されるため,これらの系では, H^{E} は,正の大きな値をとるものと考えられる。

- 69 -

	ci aii	o uccum	i oj ocom	- at ====			
x	$\frac{H^{\rm E}}{\rm J\ mol^{-1}}$	x	$\frac{H^{\rm E}}{\rm J\ mol^{-1}}$	x	$\frac{H^{\rm E}}{\rm J\ mol^{-1}}$		
{x trans-decalin + $(1-x)$ benzene}							
0.0500	190.89	0.3503	741.79	0.6510	646.62		
0.0999	346.86	0.4030	763.31	0.7000	587.31		
0.1498	471.84	0.4504	766.46	0.7507	513.56		
0.1999	571.36	0.5003	757.33	0.8004	429.55		
0.2499	648.25	0.5502	733.49	0.8509	336.14		
0.2999	702.78	0.6001	697.27	0.9003	232.82		
0.3500	743.77	0.6002	696.72				
	{ x trans-	-decalin+	-(1-x)	toluene}			
0.0989	196.36	0.4002	476.17	0.7013	396.55		
0.1495	273.56	0.4511	485.18	0.7518	351.24		
0.1988	336.12	0.4964	486.83	0.8065	291.64		
0.2508	389.48	0.5505	477.14	0.8531	235.64		
0.2991	428.01	0.5967	459.86	0.9006	166.16		
0.3496	456.95	0.6483	433.70				
	{ x trans-o	decalin+	(1-x) i	so-octane	}		
0.0493	15.03	0.3499	68.19	0.6495	65.37		
0.1001	28.39	0.3997	71.86	0.7000	59.96		
0.1495	39.55	0.4499	73.58	0.7501	53.19		
0.2001	49.51	0.4998	73.88	0.8003	44.92		
0.2502	57.38	0.5499	72.46	0.8512	35.13		
0.2995	63.79	0.6009	69.44	0.9004	24.60		
{x trans-decalin + $(1 - x)$ heptane}							
0.0479	-3.87	0.3997	-22.00	0.6493	-20.46		
0.0987	-7.75	0.4000	-22.14	0.7019	-18.57		
0.1490	-11.08	0.4490	-22.40	0.7518	-16.05		
0.1994	-14.08	0.4496	-22.54	0.7997	-13.66		
0.2495	-16.65	0.5005	-22.97	0.8006	-13.66		
0.3015	-19.01	0.5503	-22.57	0.8518	-9.87		
0.3484	-20.59	0.5996	-21.87	0.9010	-6.51		
0.3488	-20.78						

table 4. Experimental values of H^{E} for the trans-decalin systems at 298.15 K.



fig. 5 Molar excess enthalpies of $\{x \text{ trans-decalin} + (1-x) \text{ aromatic hydrocarbons} \}$ at 298.15 K.

•: { x trans-decalin + (1 - x) benzene},

O: {x trans-decalin + (1 - x) toluene},

 - : calculated from equation(1) with coefficients from table 5.

table 5. The coefficients, standard deviations and maximum deviations of the trans-decalin systems for equation(1).

_

					S r	dmax
system	a ₁	a2	a3	a4	J mol ⁻¹	
{ x trans-decalin + $(1-x)$ benzene}	3028.05	669.47	298.66	181.02	0.84	1.97
{ x trans-decalin + $(1-x)$ toluene}	1943.23	176.31	138.47	53.21	0.64	1.41
{ x trans-decalin + $(1-x)$ iso-octane}	294.65	21.58	0.08	5.64	0.15	0.34
{ x trans-decalin + $(1 - x)$ heptane}	-91.85	-0.12	16.17	-10.63	0.17	0.31



fig. 6 Molar excess enthalpies of $\{x \text{ trans-}$ decalin + (1 - x) saturated hydrocarbons.

•: { x trans-decalin + (1 - x) iso-octane}, \bigcirc : { x trans-decalin + (1 - x) heptane},

from table 5.

{ $x \text{ trans-decalin} + (1 - x) \text{ benzene} } \geq \{ x \text{ trans-} \}$ decalin + (1 - x) toluene} を比較すると, toluene系 の H^{E} は, benzene 系より, 最大値では, 約 300 J mol⁻¹ も小さい。この事は, toluene 分子には, methyl 基が存在し、純粋状態においても、benzene よりは, stacking structure のような安定な構造を 元来作りにくいため, trans-decalin を加える事に よって引き起こされる安定構造の乱れの度合いは, benzene 溶液よりも小さいためであると 考え られ る。

{x trans-decalin+ (1-x) iso-octane} \geq $\{x \text{ trans-decalin} + (1-x) \text{ heptane} \}$ では、両系と も飽和炭化水素同士の系であるので、分子間相互作 用は、共に分散力からの寄与が主要である。従って これらの系のH^Eの値は, trans-decalin+芳香族炭 化水素系よりも小さい。{x trans-decalin+(1-x) iso-octane}では, H^Eは,正で最大値は, 74 J mol⁻¹ (x=0.50)である。一方, $\{x \text{ trans-decalin}+(1$ x)heptane}では、H^Eは,負で最小値は-23 J mol⁻¹ (x=0.50) & ε iso-octane ε heptane ε it, 分子の大きさにそれ程の差はない。この事は、分子 ー: calculated from equation(1) with coefficients 間相互作用や分子の大きさの他に,分子の形による 効果も考慮に入れる必要がある事を示している。そ れ故に、これらの溶液の熱力学的性質を更に詳しく

説明するためには,モル余剰体積,V[®],のような他の熱力学量の測定をする必要がある。

References

- 1) Benson, G.C.; Murakami, S.; Lam, V.T.; Singh, J. Can. J. Chem., 48, 211 (1970).
- 2) Riddick, J.A.; Bunger, W.B. Techniques of Chemistry, vol. 2, Organic Solvents, 3rd edn., Wiley-Inter-Science, New York (1970).
- 3) Tanaka, R.; D'arcy, P.J.; Benson, G.C. Thermochim. Acta, 11, 163 (1975).
- 4) Tanaka, R.; Benson, G.C. J. Chem. Eng. Data, 21, 320 (1976).
- 5) Stokes, R.H.; Marsh, K.N.; Tomlins, R.P. J. Chem. Thermodyn., 1, 211 (1969).
- 6) Murakami, S.; Benson, G.C. J. Chem. Thermodyn., 1, 559 (1968).
- 7) Murray, R.S.; Martin, J. J. Chem. Thermodyn., 10, 711 (1978).

- 71 -